

科目名	解剖生理学 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期																																																	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 前期																																																	
担当者	藤谷 登	資格	教授	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間																																																
担当者	野島一雄	資格	医学博士 元准教授	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間																																																
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>解剖生理学はヒトの身体を扱う医療従事者にとって、最も基本となる科目である。生体を形成する各器官の構造や機能を理解し、各器官がどのような関連をもって、生体を維持しているか理解する。</p> <p>解剖生理学 I では、主に総論を学ぶ内容とし、人体の構造と機能の基礎知識、人間にとって各器官系統のもつ働きの意味を理解する。</p>																																																							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 人体の構造と機能の基礎知識を理解する。 2. 人間にとって各器官系統の持つ働きの意味を理解する。</p>																																																							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><藤谷登> 解剖学</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ①</td> <td>解剖総論・組織</td> <td>細胞、上皮、支持組織</td> </tr> <tr> <td>2. }</td> <td>② 骨学</td> <td>総論、頭蓋の骨、体幹の骨、四肢の骨</td> </tr> <tr> <td>3. }</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. ③</td> <td>筋について</td> <td>総論、骨格筋・関節</td> </tr> <tr> <td>5. ④</td> <td>脈管系（1）</td> <td>心臓、縦郭</td> </tr> <tr> <td>6. ⑤</td> <td>脈管系（2）</td> <td>動静脈</td> </tr> <tr> <td>7. ⑥</td> <td>脈管系（3）</td> <td>リンパ系組織</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>筆記試験・まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p><野島一雄> 生理学</p> <table border="0"> <tr> <td>1. }</td> <td>①生理学総論</td> <td>生体はどのようにして恒常性を維持しているのか。 生体機能調節</td> </tr> <tr> <td>2. }</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. ②</td> <td>筋・筋収縮について</td> <td>筋、筋収縮の仕組み、筋疲労</td> </tr> <tr> <td>4. }</td> <td>③血液の組織と各構造</td> <td>血液のもつ多彩な生理機能（運搬・止血・生体防御）</td> </tr> <tr> <td>5. }</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. }</td> <td>④循環系</td> <td>心臓・血管系の働きと調節、血圧の維持、心電図からわかること。</td> </tr> <tr> <td>7. }</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>筆記試験・まとめ</td> <td></td> </tr> </table>								1. ①	解剖総論・組織	細胞、上皮、支持組織	2. }	② 骨学	総論、頭蓋の骨、体幹の骨、四肢の骨	3. }			4. ③	筋について	総論、骨格筋・関節	5. ④	脈管系（1）	心臓、縦郭	6. ⑤	脈管系（2）	動静脈	7. ⑥	脈管系（3）	リンパ系組織	8.	筆記試験・まとめ		1. }	①生理学総論	生体はどのようにして恒常性を維持しているのか。 生体機能調節	2. }			3. ②	筋・筋収縮について	筋、筋収縮の仕組み、筋疲労	4. }	③血液の組織と各構造	血液のもつ多彩な生理機能（運搬・止血・生体防御）	5. }			6. }	④循環系	心臓・血管系の働きと調節、血圧の維持、心電図からわかること。	7. }			8.	筆記試験・まとめ	
1. ①	解剖総論・組織	細胞、上皮、支持組織																																																					
2. }	② 骨学	総論、頭蓋の骨、体幹の骨、四肢の骨																																																					
3. }																																																							
4. ③	筋について	総論、骨格筋・関節																																																					
5. ④	脈管系（1）	心臓、縦郭																																																					
6. ⑤	脈管系（2）	動静脈																																																					
7. ⑥	脈管系（3）	リンパ系組織																																																					
8.	筆記試験・まとめ																																																						
1. }	①生理学総論	生体はどのようにして恒常性を維持しているのか。 生体機能調節																																																					
2. }																																																							
3. ②	筋・筋収縮について	筋、筋収縮の仕組み、筋疲労																																																					
4. }	③血液の組織と各構造	血液のもつ多彩な生理機能（運搬・止血・生体防御）																																																					
5. }																																																							
6. }	④循環系	心臓・血管系の働きと調節、血圧の維持、心電図からわかること。																																																					
7. }																																																							
8.	筆記試験・まとめ																																																						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能（1） 医学書院</p>																																																							
<p>参考書</p>																																																							
<p>成績評価方法</p> <p>授業中の態度、出席状況、筆記試験。</p>																																																							

科目名	解剖生理学Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期																																									
区分	専門基礎分野		講義		2	1年 通年																																									
担当者	藤谷 登	資格	教授	実務経験	有・無	時間	25 / 60時間																																								
担当者	野島一雄	資格	医学博士 元准教授	実務経験	有・無	時間	35 / 60時間																																								
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>解剖生理学はヒトの身体を扱う医療従事者にとって、最も基本となる科目である。生体を形成する各器官の構造や機能を理解し、各器官がどのような関連をもって、生体を維持しているか理解する。 人間にとって各器官系統のもつ働きの意味を理解する。</p>																																															
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 人の身体の構造を理解できる。 2. 人間にとって各器官系統のもつ働きの意味を理解できる。</p>																																															
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><藤谷 登> 解剖学</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ①神経総論・中枢神経</td> <td>神経系の発生、髄膜</td> </tr> <tr> <td>2. ②中枢神経</td> <td>大脳、脳幹</td> </tr> <tr> <td>3. ③末梢神経・感覚器</td> <td>脳神経、目</td> </tr> <tr> <td>4. ④末梢神経・感覚器</td> <td>脳神経、目耳</td> </tr> <tr> <td>5. ⑤末梢神経・筋</td> <td>脊髄神経、頭、頸、体幹の筋</td> </tr> <tr> <td>6. ⑥末梢神経・筋</td> <td>脊髄神経、四肢の筋、交感神経幹</td> </tr> <tr> <td>7. ⑦消化器（1）</td> <td>基本構造、消化腺と消化管</td> </tr> <tr> <td>8. ⑧消化器（2）</td> <td>消化管各論</td> </tr> <tr> <td>9. ⑨消化器（3）</td> <td>肝、膵、腹膜</td> </tr> <tr> <td>10. ⑩呼吸器</td> <td>気道、肺、胸腔</td> </tr> <tr> <td>11. ⑪泌尿器</td> <td>腎臓、尿管、膀胱、尿道</td> </tr> <tr> <td>12. ⑫生殖器（1）</td> <td>男女の違い、男性生殖器</td> </tr> <tr> <td>12. ⑬生殖器（2）</td> <td>女性生殖器、受精、生殖ホルモン</td> </tr> <tr> <td>13. ⑭発生・内分泌器</td> <td>3胚葉、胎盤、内分泌器</td> </tr> </table> <p>13. 筆記試験・まとめ</p> <p><野島一雄> 生理学</p> <table border="0"> <tr> <td>1.～2. ①消化・吸収</td> <td>食物の消化と栄養素の吸収、摂取から排泄まで</td> </tr> <tr> <td>3.～5. ②呼吸</td> <td>酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、呼吸運動</td> </tr> <tr> <td>6.～8. ③腎臓</td> <td>機能と役割（老廃物の排泄、恒常性の維持）</td> </tr> <tr> <td>9.～11. ④内分泌</td> <td>ホルモンによる器官の調節機構</td> </tr> <tr> <td>12.～14. ⑤体温</td> <td>体温を一定に調節する機能</td> </tr> <tr> <td>15.～17. ⑥感覚</td> <td>外界からの刺激に対する反応</td> </tr> </table> <p>18. 筆記試験・まとめ</p>								1. ①神経総論・中枢神経	神経系の発生、髄膜	2. ②中枢神経	大脳、脳幹	3. ③末梢神経・感覚器	脳神経、目	4. ④末梢神経・感覚器	脳神経、目耳	5. ⑤末梢神経・筋	脊髄神経、頭、頸、体幹の筋	6. ⑥末梢神経・筋	脊髄神経、四肢の筋、交感神経幹	7. ⑦消化器（1）	基本構造、消化腺と消化管	8. ⑧消化器（2）	消化管各論	9. ⑨消化器（3）	肝、膵、腹膜	10. ⑩呼吸器	気道、肺、胸腔	11. ⑪泌尿器	腎臓、尿管、膀胱、尿道	12. ⑫生殖器（1）	男女の違い、男性生殖器	12. ⑬生殖器（2）	女性生殖器、受精、生殖ホルモン	13. ⑭発生・内分泌器	3胚葉、胎盤、内分泌器	1.～2. ①消化・吸収	食物の消化と栄養素の吸収、摂取から排泄まで	3.～5. ②呼吸	酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、呼吸運動	6.～8. ③腎臓	機能と役割（老廃物の排泄、恒常性の維持）	9.～11. ④内分泌	ホルモンによる器官の調節機構	12.～14. ⑤体温	体温を一定に調節する機能	15.～17. ⑥感覚	外界からの刺激に対する反応
1. ①神経総論・中枢神経	神経系の発生、髄膜																																														
2. ②中枢神経	大脳、脳幹																																														
3. ③末梢神経・感覚器	脳神経、目																																														
4. ④末梢神経・感覚器	脳神経、目耳																																														
5. ⑤末梢神経・筋	脊髄神経、頭、頸、体幹の筋																																														
6. ⑥末梢神経・筋	脊髄神経、四肢の筋、交感神経幹																																														
7. ⑦消化器（1）	基本構造、消化腺と消化管																																														
8. ⑧消化器（2）	消化管各論																																														
9. ⑨消化器（3）	肝、膵、腹膜																																														
10. ⑩呼吸器	気道、肺、胸腔																																														
11. ⑪泌尿器	腎臓、尿管、膀胱、尿道																																														
12. ⑫生殖器（1）	男女の違い、男性生殖器																																														
12. ⑬生殖器（2）	女性生殖器、受精、生殖ホルモン																																														
13. ⑭発生・内分泌器	3胚葉、胎盤、内分泌器																																														
1.～2. ①消化・吸収	食物の消化と栄養素の吸収、摂取から排泄まで																																														
3.～5. ②呼吸	酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、呼吸運動																																														
6.～8. ③腎臓	機能と役割（老廃物の排泄、恒常性の維持）																																														
9.～11. ④内分泌	ホルモンによる器官の調節機構																																														
12.～14. ⑤体温	体温を一定に調節する機能																																														
15.～17. ⑥感覚	外界からの刺激に対する反応																																														
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能（1） 医学書院</p>																																															
<p>参考書</p>																																															
<p>成績評価方法</p> <p>定期試験以外にも、筆記試験を実施することもある。 授業中の態度、定期試験、小テスト。</p>																																															

科目名	生化学（栄養学含む）	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 前期	
区分	専門基礎分野						
担当者	升野博志	資格	医学博士 元教授	実務 経験	有・無	時間	19 / 34時間
担当者	兵頭よし子	資格	管理栄養士	実務 経験	有・無	時間	15 / 34時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生体を構成している物質が不足あるいは過剰になった時、我々の身体には様々な症状が現れる。病気を理解するためには生体の構成成分の知識が不可欠である。そこで生体の構成成分の種類と役割を理解し、それらがどのように代謝・調節されているかを学ぶ。</p> <p>栄養学では、食と健康に関して学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動を行うための物質、エネルギー代謝のしくみが理解できる。 2. 体内の代謝調節の仕組みが理解できる。 3. 栄養素の種類、意義について理解できる。 4. ライフサイクルに応じた栄養のあり方が理解できる。 5. 臨床栄養の意義と食事療法を理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><升野博志> 生化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アミノ酸・蛋白質の構造と性質 2. ビタミンの分類と生理作用 3. 酵素と阻害形式 4. 糖質の種類とその代謝・エネルギー代謝 5. 脂質の種類とその代謝 6. 蛋白質代謝 7. 遺伝子とその発現 8. ホルモンの分類と生理作用 9. 血液の成分と働き、ヘム代謝 10. 筆記試験・まとめ <p><兵頭よし子> 栄養学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と栄養 2. 日常生活と栄養 3. 栄養指導・保健指導 4. 食物と栄養 5. ライフステージと健康教育 6. } 疾患別食事指導の実際 7. } 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>石黒伊三雄 わかりやすい生化学 第5版 ヌーベルヒロカワ 中村美智子他 わかりやすい栄養学 第4版 ヌーベルヒロカワ</p>							
<p>参考書</p> <p>香川靖雄・野沢義則著 「ナースのための生化学・栄養学」 南江堂</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	病理学（総論）	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 前期	
担当者	藤谷 登	資格	教授 臨床検査技師	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>病理学は疾患の原因（病因）、経過及び結果（転帰）を究明する学問であり、基礎医学と臨床医学の「橋渡しの位置」にある。病理学は通常、病理学総論と病理学各論に分けて講義されるが、学生は病理学総論で初めて臨床医学用語に触れることになる。</p> <p>講義では「患者の健康回復」という共通の目標に向かって、他の医療従事者と意思の疎通を円滑にし得るように、最も基礎的な臨床医学用語の160余語について、各々の講義を明確に理解できるように指導する。また、看護行為に病理学的知識を応用できるようにも指導する。</p> <p>また、病理学は人体の「異常」を論じる学問であるので、新しい項目に入る時に、或いは必要に応じて適宜、解剖生理学の教科書を参照させて、人体の正常構造及び機能を復習させる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因論について内因、外因より理解できる。 2. 疾病の分類とそれぞれの成り立ち、種類、影響が理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは 2. 先天異常と遺伝子異常(※) 3. 細胞・組織の障害と修復（細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒） 4. 代謝障害（脂質代謝障害／タンパク質代謝障害、糖尿病など） 5. 循環障害(※) 6. 炎症と免疫／移植と再生医療(※) 7. 感染症（感染と宿主の防衛機構、おもな病原体と感染症） 8. 腫瘍(※) 9. 筆記試験・まとめ <p>※ 病因（内因、外因）、疾病の分類</p>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(1) 病理学 第5版 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>1) 系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能[1] 解剖生理学</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	病態治療論Ⅰ (呼吸・内分泌・代謝)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 後期	
区分	専門基礎分野							
担当者	松田かおり	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
担当者	今岡大也	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>医療分野の専門家として必須である病気の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解をする。この講義では、呼吸器・内分泌・代謝疾患について上記の項目について解説する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。 2. 内分泌疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。 3. 代謝疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><松田かおり></p> <p>呼吸器疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患で良くみられる症状 2. 呼吸器疾患診断のための検査法 3. 上気道・気管支の疾患 (かぜ症候群、インフルエンザ、急性・慢性気管支炎、気管支喘息・気管支拡張症、肺のう胞症) 4. 肺の疾患① (肺炎、肺化膿症、肺結核症、非定型好酸菌症) 5. 肺の疾患② (肺真菌症、肺寄生虫症、サルコイドーシス、間質性肺疾患、塵肺) 6. 肺の疾患③ (肺気腫、肺循環障害、無機肺、肺癌、過換気症候群、呼吸不全) 7. 肺以外の胸部疾患 (胸膜の疾患、縦隔疾患、胸部外傷) 8. 筆記試験・まとめ <p><今岡大也></p> <p>内分泌疾患・代謝疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌疾患で認められる症状、内分泌疾患の検査法 2. 視床下部下垂体ホルモン異常症 3. 甲状腺、副甲状腺ホルモン異常症 4. 副腎ホルモン異常症、その他の内分泌異常症 5. 糖尿病① (疾患の概要、診断法) 6. 糖尿病② (治療法、生活指導) 7. 高脂血症、肥満、痛風 8. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝疾患患者の看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器疾患患者の看護 医学書院</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	病態治療論Ⅱ (循環・血液造血・感染)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 前期	
区分	専門基礎分野							
担当者	菅 志乃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
担当者	佐藤正晃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>医療分野の専門家として必須である病気の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解する。この講義では、循環器・血液、造血器・アレルギー、膠原病、感染について下記の項目について解説する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系疾患の病因、病態生理、診断方法、予後治療法について理解できる。 2. 血液・造血器疾患の病因、病態生理、診断方法、予後治療法について理解できる。 3. アレルギー、膠原病、感染症の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><菅 志乃> 循環器疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系疾患でよくみられる症状 循環器系疾患診断のための検査法 2. 代表的疾患の病態生理と診断・治療 <ol style="list-style-type: none"> ① 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） ② 高血圧 ③ 心不全 3.～4. <ol style="list-style-type: none"> ④ 心臓弁膜症 ⑤ 不整脈 ⑥ 先天性心疾患 5.～7. <ol style="list-style-type: none"> ⑦ 心膜炎・心筋疾患 ⑧ 血管の疾患 ⑨ 心臓・血管手術と術後患者の管理 8. 筆記試験・まとめ <p><佐藤正晃> 血液造血・アレルギー・膠原病・感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 免疫の仕組みとアレルギー 3. 主要症状の病態生理 4. 血液・造血器系疾患の検査法 5. 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> ① 貧血 ② 白血病 ③ 悪性リンパ腫 ④ 紫斑病 6. 代表的疾患の病態生理 <ol style="list-style-type: none"> ① 膠原病 ② MRSA ③ エイズ ④ 結核 ⑤ 食中毒 7. 治療・検査・処置 薬物療法(ステロイド療法) 8. 筆記試験・まとめ 								

教科書

系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学3	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学4	血液・造血器	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学11	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	病態治療論Ⅲ (消化器)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 後期	
区分	専門基礎分野						
担当者	高山朗子	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	井戸英司	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>消化器の基礎的な仕組みや働きを理解し、さらに消化器系の疾患に関し、病因、病態生理、診断法、予後、治療法について理解する。 これらの理解を通じ、患者の適切な身体的評価ができる基礎知識を習得し、看護の展開に生かすことが出来る。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 消化器系疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><高山朗子> (食道・胃・十二指腸、小腸、大腸)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肛門の構造と機能 2. } 消化器疾患でよくみられる症状（嚥下困難、おくび・胸やけ、嘔吐・嘔気他） 3. } 4. } 検査と治療（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸に関する項目） 5. } 6. } 疾患の理解（食道・胃） 7. } 疾患の理解（十二指腸・小腸・大腸） 8. 筆記試験・まとめ <p><井戸英司> (肝臓・胆道系・膵臓)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肝臓・胆道系、膵臓の構造と機能 2. 消化器疾患でよくみられる症状（黄疸、門脈圧亢進症他） 3. 検査と治療（肝臓・胆道系・膵臓に関する） 4. } 疾患の理解 5. } 6. } 総復習 7. } 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器疾患患者の看護 医学書院</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	病態治療論Ⅳ (脳神経・運動・リハビリ)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		2	1年 後期	
区分	専門基礎分野						
担当者	田中宏明	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	井出雄久	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	渡辺高志	資格	理学療法士	実務 経験	有・無	時間	15 / 45時間

授業の目的・ねらい

医学的観点から患者の適切な身体的評価ができる基礎知識を習得し、看護の展開に生かす。
脳神経・運動器の代表疾患について学び、症状、病態整理、検査、治療について理解する。
リハビリテーションの概念理解と、各リハビリテーションの方法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 脳神経系疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。
2. 運動器疾患の病因、病態生理、診断法、予後治療法について理解できる。
3. リハビリテーションの概念・リハビリテーションにおける看護師の役割、各リハビリテーションの方法について理解できる。

授業概要（授業計画）

<田中宏明>

脳神経

代表的疾患の症状と病態生理、検査、処置、治療、予後

1. 脳神経の構造と機能
2. } ① 脳血管障害、脳出血、脳梗塞
3. }
4. ② 脳腫瘍
5. ③ 感染症 髄膜炎 脊髄疾患
6. ④ 変性疾患 パーキンソン病 アルツハイマー
7. ⑤ その他
重症筋無力症
多発性硬化症
筋委縮性側索硬化症
8. 筆記試験・まとめ

<井出雄久>

運動器疾患

代表的疾患の症状と病態生理、検査、処置、治療、予後

1. 運動器の構造と機能
2. 骨折
3. 先天性疾患／骨・関節の炎症性疾患
4. 骨腫瘍
5. 麻痺性疾患
6. 代謝性骨疾患／神経・筋疾患
7. 上肢および上肢帯、下肢および下肢帯の疾患
8. 筆記試験・まとめ

<渡部高志>

リハビリテーション

1. ① リハビリ概説
2. ② リハビリテーションの歴史
3. ③ リハビリにおける看護師の役割
4. ④ 筋力の増加と減少について
5. ⑤ 筋力の増強
6. ⑥ 呼吸リハビリ、温熱療法
7. ⑦ 失語症、麻痺性構音障害
8. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学7	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学10	医学書院
系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	医学書院

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	病態治療論Ⅴ (外科・麻酔・救急)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	2年 前期	
区分	専門基礎分野							
担当者	木原 晃	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	20 / 30時間	
担当者	寺尾 欣也	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	10 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>外科治療および麻酔の基礎的知識を学び、看護の展開に生かすことができる。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療について理解できる。 2. 麻酔・救急法について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><木原 晃> 外科的療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的療法とは 呼吸器 2. 内分泌（甲状腺）・乳がん 3. 小児外科 4. 循環器・脈管 5. 消化器（上部・下部） 6. 消化器（肝・胆・膵） 7. 外傷・中毒・多臓器不全 8. ショック・急性腹症 9. 術後合併症・その他 10. 筆記試験・まとめ <p><寺尾 欣也> 麻酔・救急法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻酔法 麻酔の管理 全身麻酔 2. 麻酔法 局所麻酔 麻酔に使用される薬物 3. 酸素療法と機械的人口換気 救急処置法 4. 救急蘇生法 5. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院</p>								
<p>参考書</p> <p>必要時プリント</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	病態治療論VI (腎・泌尿・女性生殖)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	2年 前期	
区分	専門基礎分野							
担当者	黒光浩一	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
担当者	吉良敏彦	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	10 / 30時間	
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務 経験	有・無	時間	5 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>腎・泌尿器・生殖器に疾患を持つ対象の身体的アセスメントができる基礎的知識を学び、看護に役立てる。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器疾患について理解できる。 2. 女性生殖器疾患について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><黒光浩一> 腎・泌尿器疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎機能・尿について 2. 腎泌尿器疾患 3. 腎泌尿器の検査 4. 腎臓疾患について 5. 結石について 6. 腎機能・前立腺 7. 前立腺癌について 8. 筆記試験・まとめ <p><吉良敏彦> 女性生殖器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器の構造と機能 2. 診察と検査 3. 疾患の理解（性分化疾患／臓器別疾患） 外陰の疾患、膣の疾患 4. 子宮の疾患 5. 卵巣、卵巣の疾患 6. 筆記試験・まとめ <p><古浦和香> 女性生殖器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月経異常、更年期障害、不妊症、不育症 2. 性感染症、性器結核 3. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	病態治療論Ⅶ (感覚)	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期		
				講義			1	2年 後期	
区分	専門基礎分野								
担当者	佐々木裕美	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	7 / 30時間		
担当者	田窪一徳	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	8 / 30時間		
担当者	鈴木裕介	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	8 / 30時間		
担当者	羽倉隆昌	資格	医師	実務 経験	有・無	時間	7 / 30時間		
授業の目的・ねらい 耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉の構造、検査、疾患とその症状、治療について学ぶ。 眼科 眼球の構造、眼科的検査、及び眼科疾患一般について概説する。 皮膚科 基本的な皮膚の解剖と生理、検査法、種々の皮膚疾患名とその症状、治療の原則と基礎技術を屈指した介助法を修得する。 歯科 口腔の解剖と生理、一般歯科治療の概要を学ぶ									
学生の到達目標 1. 耳鼻咽喉科疾患について理解できる。 2. 眼科疾患について理解できる。 3. 皮膚科疾患について理解できる。 4. 歯科疾患について理解できる。									
授業概要（授業計画） <佐々木裕美> 耳鼻咽喉科 1. 耳鼻咽喉の構造と機能 2. 耳鼻咽喉科検査法の理解 3. 耳鼻咽喉科疾患の理解及び治療法の理解 中耳炎 鼻炎 メニエール病 咽頭癌 4. 筆記試験・まとめ <田窪一徳> 眼科 1. 眼の構造と機能 眼科における検査 2. 外眼部疾患 緑内障 3. 白内障 網膜剥離 4. 糖尿病性網膜症 ブドウ膜炎 斜視 弱視 5. 筆記試験・まとめ <鈴木裕介> 皮膚科 1. 皮膚の構造と機能 症状とその病態生理 2. 検査と治療/処置 3. } 疾患の理解 4. } (熱傷 皮膚癌 湿疹 (アトピー性皮膚炎を含む)) 5. 筆記試験・まとめ <羽倉隆昌> 歯科 1. 歯・口腔の構造と機能 2. } 検査・治療・処置・疾患の理解 3. } (歯の異常・口腔領域の異常・口腔粘膜の異常など) 4. 筆記試験・まとめ									

教科書

系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学14	[耳鼻咽喉]	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学14	[眼]	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学12	[皮膚]	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学15	[歯・口腔]	医学書院

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	薬理学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 通年	
担当者	日浅 拓	資格	薬剤師	実務 経験	有・無	時間	17 / 30時間
担当者	住村亮次	資格	薬剤師	実務 経験	有・無	時間	13 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>医療チームの一員として要求される各薬物の薬理作用、有害作用及び薬物と生体の相互作用などの基本的な知識などについて学び、臨床での薬物による生体の状態変化などに迅速かつ適切な対応ができるようにする。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬がどのように人に影響するのか、作用と副作用について理解できる。 2. 薬の投与方法、投与量と薬効について理解できる。 3. 薬物の管理について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><日浅 拓></p> <p>第1章 総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. I 薬理学の概念 2. II 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 3. III 医薬品の管理 <p>第2章 末梢神経系作用薬</p> <p>第3章 中枢神経系作用薬</p> <p>第4章 循環器系作用薬</p> <p>第5章 抗炎症薬</p> <p>第6章 呼吸器系作用薬</p> <p>9. 筆記試験・まとめ</p> <p><住村亮次></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第7章 消化器系作用薬 2. 第8章 ホルモン系・生殖器系作用薬 3. 第9章 抗感染症薬 4. 第10章 抗悪性腫瘍薬 5. 第11章 漢方薬 6. まとめ 7. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>安原 一・小口勝司編 「わかりやすい薬理学」第3版 ヌーベルヒロカワ</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	微生物学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 前期	
区分	専門基礎分野						
担当者	畑 明寿	資格	准教授	実務 経験	有・無	時間	31時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>近年、医療分野における感染症は多様化している。特に院内感染・日和見感染および新興・再興感染症などにも対応しなければならない。そのために基礎となる微生物学では、個々の病原微生物について学ぶ。また、抗菌薬および薬剤耐性菌についても学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各微生物の概要について理解できる。 2. 感染の成り立ち、発症や治療、免疫について理解できる。 3. 感染症の情勢について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学とは、細菌の性質について 2. 真菌・原虫・ウイルスの性質について 3. 感染の成り立ちから発症・治療まで（細菌・真菌・原虫・ウイルス） 4. } 感染に対する生体防御機構 5. 6. } 感染経路について、滅菌と消毒・検査と診断 7. 8. } 化学療法について 9. 10. } 感染症の現状と対策 11. 12. 病床細菌と細菌感染症 13. 病原真菌と真菌感染症 14. 病原原虫と原虫感染症 15. 病原ウイルスとウイルス感染症 16. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>相川正道 現代の感染症 岩波新書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	健康論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	1年 前期	
担当者	渡部康子	資格	看護教員 保健師	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>健康について、人間としての統合された機能を維持している状態として捉え、その人らしく自己表現を目指せる生活の中で健康について考える。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とはなにか、健康をどのようにとらえるべきかを理解できる。 2. 障害とはなにか、障害をどのようにとらえるべきかを理解できる。 3. 健康と障害、生活の関係を把握する。 4. 主要な公的統計の結果から、国民全体の健康と生活の全体像を把握する。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>I. 健康概念について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WHO プライマリーヘルスケア ヘルスプロモーション <p>II. 健康のとらえ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. (1) 健康とはなにか <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の定義 2 権利としての健康 3 健康の拡大 3. (2) 健康でない状態とはどのようなものか (3) 障害とはなにか (4) 健康と生活 <ol style="list-style-type: none"> 1 生活をとらえる視点 2 生活と疾患・障害の予防 3 健康とQOL <p>III. 国民の健康状態</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. (1) 国民の健康の全体像 <ol style="list-style-type: none"> 1 有訴者率と通院者率 2 患者の状況 3 障害者の状況 4 難病患者の状況 5 死亡の状況 5. (2) 子どもの成長と健康 (3) 高齢者と介護 <p>IV. 国民のライフサイクル</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. (1) 平均寿命と出産 (2) 結婚と出産 7. (3) 家族 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 「看護学概論」 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>国民衛生の動向</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	総合医療論	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期	
				講義		1	2年 後期	
区分	専門基礎分野							
担当者	大串直太	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15時間	
担当者	妻鳥和美	資格	看護師 保健師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健・医療に携わることを目指すときに、医療の原点、看護のあり方、生命、健康、病気とは何か、などどうしても一度は考えておくべき基本的なことがらを学生自身が考え、現代医療を全般的に見渡し、医療の新しい展望を理解し、看護のめざす大きい目標を明確にする。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の原点、看護のあり方、生命、健康、病気とは何かについて考えることができる。 2. 現在医療について、課題について理解できる。 3. 医療の新しい展望について理解する。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序章（総合医療論とは） 2. 健康とは 3. 私たちの生活と健康 4. 疾病の一次予防と健康増進・トリアージ 5. 移植医療・手紙 6. 現代医療の新たな課題 7. 特別講義：『困難を超えて今』 8. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度(1) 「総合医療論」 医学書院</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	公衆衛生学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 後期	
区分	専門基礎分野						
担当者	廣瀬浩美	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健・医療・福祉を総合的に理解し、人々の健康の保持・増進のために知識を活用できるよう解説する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の活動対象、しくみについて理解できる。 2. 公衆衛生の場での疫学について理解できる。 3. 公衆衛生と地域保健と環境保健について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生のエッセンス 公衆衛生の活動対象 国際保健 2. 環境と健康 3. 地域における公衆衛生の実際 A 公衆衛生看護とは B 母子保健 学校と保健 4. 感染症とその予防対策 地域における公衆衛生の実際 F 歯科保健 G 障害者保健・難病保健 5. 地域における公衆衛生の実際 C 成人保健 D 高齢者保健 E 精神保健 6. 公衆衛生のしくみ 7. 集団の健康をとらえるための手法 - 疫学 保健統計 職場と健康 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度(2) 公衆衛生 医学書院</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	社会福祉 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門基礎分野		講義		1	2年 後期	
担当者	渡部 輔	資格	社会福祉士	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>社会における福祉の動向を捉え、社会保障制度について解説し、看護活動に活かせるようにする。</p> <p>ここでは社会福祉制度の概要をとらえる。児童福祉以外は社会福祉Ⅱで学ぶとする。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近年の日本における社会の変化を知り、社会保障・社会福祉がどのように利用されているか理解できる。 2. 社会福祉・社会保障制度の概要について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活問題と福祉 2. 社会福祉の意味 3. 社会福祉の制度および援助方法、生活保護について 4. 高齢者福祉について 5. 施設サービスの利用者負担とその内容、介護保険について 6. 児童福祉について 7. 障害者福祉について 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>福田素生他著 「系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉」 医学書院</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	社会福祉Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	3年 後期	
区分	専門基礎分野						
担当者	西部 滉平	資格	社会福祉士	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>地域医療と福祉の現状について学び、看護に役立てる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の具体的内容について理解できる。 2. 社会福祉の現状と援助について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保障 背景と歴史、概要、課題と展望 2. 所得保障 役割、年金保険、社会手当、労働保険 3. } 社会福祉の分野とサービス 4. } 高齢者福祉と施策 障害者福祉と施策 5. } 社会福祉実践と医療・看護 6. } 個別・集団援助技術、間接・関連援助技術 連携の重要性、場面とその方法 7. 演習問題 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>小松源助他著 「系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉」 医学書院</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	関係法規	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	3年 通年	
区分	専門基礎分野						
担当者	山本昭彦	資格		実務経験	有・無	時間	10 / 15時間
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	5 / 15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健、医療、福祉に関する法規をもとに医療従事者としての業務と責任について学ぶ。 看護職は、深い人間愛をもって人が生きる希望と力を与え、生涯にわたり尊厳をもって輝く人生を送れるよう支援する崇高な業務である。このため、看護職は高い教養と深い専門知識及び優れた技術技能が求められており、その資格や業務については法律で厳格に規制されている。</p> <p>本講義では、看護に携わる者にとって関連する重要な法規について、その目的や業務等について学習し、必要な知識を身に付ける。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉に関する法律の種類、目的、内容を理解できる。 2. 保健師・助産師・看護師法、看護に関する法律について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><山本昭彦></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 環境衛生法 環境法 2. 社会保険法、福祉法 3. 保健衛生法 4. 薬務法 労働法と社会基盤整備 5. 医事法 試験対策 6. 筆記試験・まとめ <p><山台和子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院 ※ 別途「講義ノート」を併用</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							